

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業  
 (発達障害早期支援研究事業)  
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (長浜市教育委員会)

1. テーマ

個々の教育的ニーズに基づく適切な教育環境の構築と、同じ場で共に学び合う授業づくりを推進することにより、子供たちに対する指導方法の改善と早期支援を行う。

2. 問題意識・提案背景

平成 24 年度～平成 27 年度の市が行った調査では、通常の学級に在籍する児童生徒のうち、個別の指導計画を立て特別な教育的支援を行っている児童生徒の割合は、全国平均とされる 6.5%を超え、年々増加傾向にある。そうした状況から、本市においては個に応じた指導・支援とともに、学級集団作り、授業改善の施策の充実が求められている。

学校現場においては、全職員で特別支援教育に取り組める支援体制づくりや個々の児童の特性を理解し対応する教員の指導力の向上、各教科・領域における指導方法の改善などを行ってきた。

平成26年度から2年間、市内の小学校2校をモデル校として本事業を実施する中で、全ての児童が「分かる」「できる」を実感できるユニバーサルデザインの視点を包括的に取り入れた授業改善及び教室環境改善やソーシャルスキルトレーニングを積極的に取り入れてきた。その結果徐々にではあるが、学校全体で特別支援教育の推進を図ることができ、教員の特別支援教育についての理解が深まり、学習面や行動面で何らかの困難を示す児童に対する支援の充実につながってきた。今後、長浜市におけるインクルーシブ教育の推進、支援の充実と指導方法の開発につながるものと期待している。

3. 指定校について

(小学校)

(H28. 2)

指定校名：長浜市立長浜小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	157	5	162	5	132	4	173	5	151	5	152	4
特別支援学級	2		8		3		5		4		7	
通級による指導の対象者数	1		3		3				4		1	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	2	38	2	3	2	2	3	0	0	53	

指定校名：北郷里小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	36	2	38	2	34	1	30	1	44	2	46	2
特別支援学級					2	2	2	1	1	1	2	1
通級による指導 (対象者数)												
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	2	15	1	1	2	1	0	0	1	24	

#### 4. 指定校における取組概要

<p>(1) 目的・目標</p> <p>長浜市ではモデル校2校に2名の発達障害支援アドバイザーを活用した。発達支援アドバイザーが、授業参観や児童観察の時間を通してそれぞれの学級や子供たちのアセスメントを行い、教員と共にそれぞれの学級課題や子供の課題を明確にした上で、教員への指導助言・子供の個別指導等をした。支援がどの児童にとっても有効な支援につながる指導を工夫し「分かる授業づくり」を目指した。</p> <p>(2) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化</p> <p>学級アセスメントや生徒理解に関するチェック・リスト、読み書きのスクリーニングを行い、早期発見早期支援につとめた。また、困難を示す児童の理解を深めるため、専門家を講師として招いて、アセスメントの見直しや支援の方策を探った。</p> <p>(3) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容</p> <p>ア. 授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容</p> <p>(ア) 児童のつまづきを洗い出し、主なつまづきについて、焦点化・視覚化・共有化をいかし、具体的な手立てを取り入れた授業を創造してきた。</p> <p>(イ) 全校が算数科の授業のはじめ5分程度を使って、本読み計算や計算問題などに取り組むことを決定し、継続して実践した。</p> <p>(ウ) 焦点化、視覚化、共有化に対する工夫はもとより、身近さや必然性のある教材の工夫、全体討論とペア学習とのバランスやタイミングに意を払った学習形態の工夫、思考を揺さぶる問い返しの工夫などをした。</p> <p>(エ) 安心して「わからない」と言える学級づくりを基盤に、算数の得意な子も苦手な子も、理解の早い子も遅い子も一緒になって、真剣に授業に参画するようにした。</p> <p>(オ) 行動面においては、ソーシャルスキルトレーニングを積極的に取り入れる実践を行った。</p> <p>イ. 放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容</p> <p>(ア) 通常授業や課外での取り出し指導、学習補助など個別の指導法の開発を行った。</p> <p>(イ) 独自の通級支援教室（通級による指導教室のこと）を開設し、課題のある</p>
--

子供の受け皿として、学習支援やソーシャルスキルトレーニングを行った。  
(ウ) 土曜日に学校を開放し、学校が主催する土曜学習会を年間 10 回開設し、自主的に学習に参加できる機会の場を設定した。図書室での読書学習やコンピュータ室での e ライブラリ学習、通常教室での自主学習と問題チャレンジの時間を設けた。

(4) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法

ア. 個別指導における記録を残し、ケース会議を開催し、評価をしながら指導方法を見直して進めた。

イ. 子供、保護者、教師にアンケートを実施しその結果を分析し改善につなげた。

エ. 読み書きの課題への早期発見早期対応のため、1 年生では多層指導モデル MIM に取り組み、指導と評価を繰り返した。

オ. 5 月と 12 月に QU テストを実施し、5 月の結果を元に考えた学級経営により児童の学校満足度について、相対的位置がよりよい位置に上がったかどうかを計った。

## 5. 主な成果

どの子も学ぶ意欲を持ち続け、学び合う楽しさを感じられるために授業のユニバーサルデザイン化の課題の焦点化、資料等の視覚化、わからなさや困り感の共有化をキーワードとして実践してきた。また、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、個々の帰属度や集団性を把握すると共に、学級集団の改善を進めた。その結果、落ち着いて学習に取り組める子供が増えた。そのことが、学級全体、ひいては、学校全体の落ち着きにつながった。

個別支援については、丁寧なアセスメントとアセスメントに基づいた支援を早期に行うことができた。当初保護者には、本人の特性に対して理解が得られなかったが、個別支援計画や具体的に細かな支援を説明することで、発達検査や教育相談を積極的に受けてもらえるようになった。本人に対する家庭での支援も少しずつ得られるようになった。

医療機関と連携した支援を可能にするため、学校としてすべきことが模索でき、実際に医療機関と連携した支援につながった。

## 6. 今後の課題と対応

授業を焦点化・視覚化・共有化というキーワードに分け、ペア学習など様々な手立てを打つことによって、子供たちの思考を継続させ、理解を深めることができ、それぞれの手立ての有効性を強く感じる事ができた。しかし、その有効性の検証にまでには至らなかった。それは、子供が学び続けているか、学ぶ楽しさを感じているかを検証する方法を明確にすることができなかつたためである。検証するためには、子供の思考が把握できるように、見えるようにしていく必要があると考えられる。

そこで、今後においても、どの子も考え、学び続けるために、子供の思考や変容

が把握できる有効な手立てを明確にして、インクルーシブ教育の視点を重視した研究をより一層進めていきたい。加えて、学級や子供たちのアセスメントを一層有効に活用し、早期に支援できる実践研究を進めていきたい。その際、実践のみで終わるのではなく、教員や子供、保護者の評価や学力調査などを中心に確かな検証を行い、適宜取組に改善を加えていきながら進めていこうと考えている。

## 7. 問い合わせ先

組織名：

- |             |                                    |
|-------------|------------------------------------|
| (1) 担当部署    | 長浜市教育委員会事務局 教育指導課                  |
| (2) 所在地     | 滋賀県長浜市八幡東町 632 番地                  |
| (3) 電話番号    | 0749-65-8605                       |
| (4) FAX 番号  | 0749-65-6540                       |
| (5) メールアドレス | kawasaki-keiko@city.nagahama.lg.jp |